

30 個（悪水期）及び 15 個（常水期）

2. 外観検査及び定性試験
3. 水素イオン濃度の測定, $[PH]_N=7.3$
4. 全固形物, 鹽化物及び硫酸鹽の定量

鹽 類	採水時期	満 潮	中 潮	干 潮
全固形物 ‰	悪水期	20.0 ~ 15.0	15.0 ~ 10.0	10.0
	常水期	4.5 ~ 4.7	2.2 ~ 2.3	1.9
鹽化物 (NaCl) ‰	悪水期	14.0 ~ 13.5	10.7 ~ 8.5	9.4 ~ 8.1
	常水期	3.5 ~ 3.7	2.0 ~ 2.1	1.3
硫酸根 (SO ₄) ‰	悪水期	0.98 ~ 0.94	0.61 ~ 0.68	0.57
	常水期	0.26 ~ 0.29	0.16 ~ 0.18	0.10

5. 結論

II. 市販各種ポルトランド・セメントに関する耐鹹性試験

1. 試料及び供試體, 市販ポルトランド・セメント, 23 個, 標準軟練モルタル供試體 (配合 1: 1: 2, 水セメント比 60%, フロー 200, 4週水中養生, 10% Na₂SO₄ 溶液中に浸漬, (4週, 9週, 13週, 17週))

2. 耐鹹性試験

- (1) セメントの化學分析
- (2) セメントの鐵率と耐鹹性 (壓縮強さの減少) との関係
- (3) セメントの C₃A 含量と耐鹹性 (壓縮強さの減少) との関係

3. 結論

C-3 コンクリート内部振動機使用時に於ける 振動の波及状態に就て

會 工 内 山 實

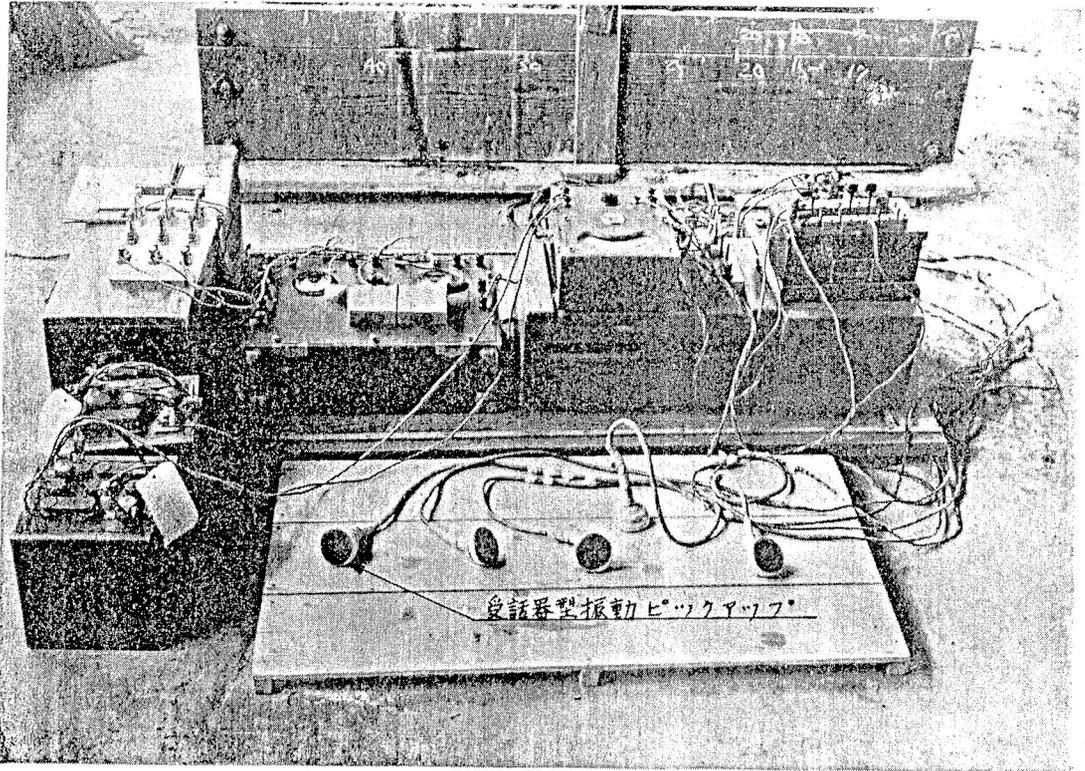
(鐵道省大臣官房研究所技師)

内部振動機に依つてコンクリートに與へられた振動が如何なる形狀を以てどの範圍に迄傳播するかと云ふ問題は, 振動コンクリートを施工する際の「振動機の挿入間隔」決定上一應は究明されるべき性質のものと信ずる。

振動コンクリート内に於ける振動の波及状態は振動機を遠ざかる各點に於て振動の強さを測定

し、振動波及曲線を畫くことに依り之を知ることが出来る。振動強さの測定には圖-1に示す如

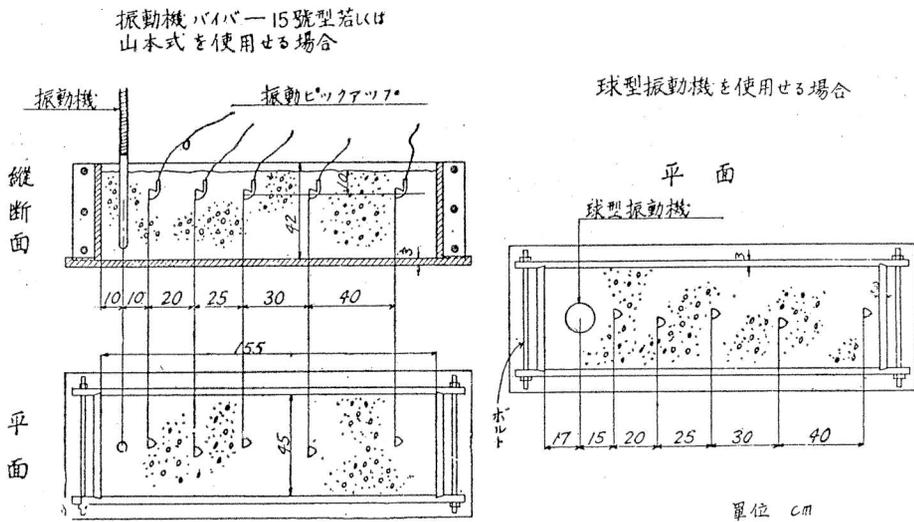
圖-1 振動測定装置



き受話器型振動ピックアップを有する電氣的装置を使用した。

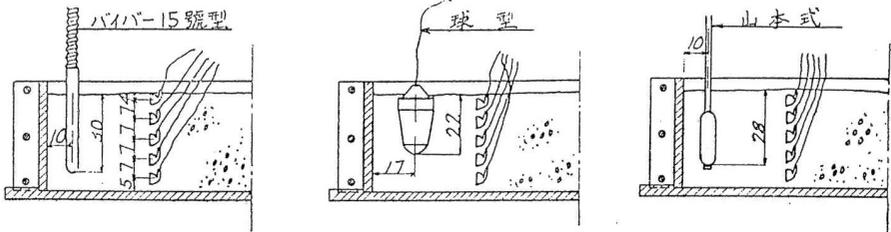
本文は振動の波及に相當大きな役割を演ずるであらうと思はれる型枠形状の影響は實驗の都合

圖-2 a.



上之を切離し、供試コンクリート部材の形状を一定として型枠から来る周邊的影響を共通とした場合に(1)コンクリートの品質(2)使用振動機の性能と形態が如何に振動の波及に關與するかを實驗したものである。

圖 -- 2 b



圖一3 使用振動機

